

カイコガの羽化

学校法人峰学園 すぎの子幼稚園
社会福祉法人峰悠会 おおぞら保育園 (群馬県桐生市)

[5歳児]

☆6月22日(火) 1頭羽化

T児「カイコガが産まれたよ」 F児「この穴から出てきたんだ！」
C児「顔がかわいい～。眉毛みたいなのがある！」
T児「オスかな？メスかな？」 M児「大きいからオスかな？」
T児「ちょっと図鑑で調べてみようよ」
◇『かえるよ！カイコ』で調べ始める。



(「ドキドキワクワク生き物飼育教室<4>」リブリオ出版/作・絵：アトリエモレリ 監修：久居宣夫)

K児「大きいのがメスだって！」
T児「メスにはお尻のところに、オレンジ色のが出てるんだって」
B児「あっ、オレンジのあるよ」 K児「本当だ！じゃあ、これはメスだ」
Y児「カイコガは何も食べませんって書いてある！」
I児「え～、何も食べないの！？お腹空いちやうよね」



☆6月23日(水) 4頭羽化

～登園時～

M児「あっ、カイコガとカイコガが結婚してる！」
T児「本当だ、しかも1・2・3・4・5頭になってる」
I児「でもオスは1頭しか結婚してないね？」 K児「後はみんなメスだからだよ！」
T児「そっか、でも、なんでメスしかいっぱい産まれてこないんだろね」

～午後のおやつ前～

保育者が、オスとメスを離すと卵を産むことを知らせ、やってみることになった。(産卵の様子が見やすいように透明の容器を用意しておく) Y児が、メスを別の容器に移した所へ、四角い容器をかぶせる。
保育者「こうやってカイコガにカップとかをかぶせておくと、カップの形に卵を産むんだって」

～夕方の延長保育の時間～

子どもたち「卵だあ！」「わあ、産んでる！」「卵、黄色いね！」
子どもたちは産卵の様子を静かに小声で話しながら見守る。初めての光景に感動する姿が見られた。

☆6月24日(木) 8頭羽化 3組交尾

T児「あぁ～卵がいっぱい！」 Y児「昨日の夕方に産んでたんだよ」
保育者「みんなが蚕の卵を出した時って何色だった？」
T児「黒だった。あれ？この卵は黒じゃなくて黄色だ。この卵は休眠卵じゃなくて非休眠卵かもしれない！？」
図鑑を見て卵が2種類あることを知っていたT児は、色の違いに気付き仮説をたてた。
午後の世話の時間になると、「また、カイコを離そうよ。また卵産むんじゃない？」という声があがる。
子どもたちと相談し、今度はプリンカップをかぶせてみることにする。

☆6月25日(金)

M児「わあすごい、ほんとに卵が丸くなってる！」 Y児「本当だ、すごい」
B児「きれいだね」 T児「あれ？こっちの卵が黒くなってる！」
B児「ホントだ。色が変わってる」
T児「黒くなったってことは、本当は休眠卵だったってことだ！」



[考察]

繭から羽化したカイコガを初めて見た子どもたちから、歓声や発見の声がたくさんあがった。観察しながらオスとメスの違いやカイコガの特徴などに疑問を感じ、考えたり調べたりする中で答えを見つけ出すことが自然にできるようになってきている。また、今まで蚕の幼虫と親しみをもってかかわってきたことで、他の幼虫とは全く違うカイコガの姿を見ても、子どもたちからは「かわいいー」など、愛着をもった声が多く聞かれた。

みどころ

初めてのカイコガの羽化に関心が高まった仲間同士でやりとりをすることで、次々と驚きや疑問の声が広がり、そのたびに図鑑で確認したり実物と見比べたりして、みんなで納得していきます。自分たちで飼育してきた蚕が羽化したことで、感動を共有し、より仲間意識が高まっている様子がわかります。こうした、共に考えたり調べたりしながら心が響き合う子どもたちの姿から、「科学する心」の育ちを捉えることができます。